

少年の性暴力被害の実態とその影響
に関する研究報告書

平成11年 3月

性暴力被害少年対策研究会

財団法人 社会安全研究財団助成研究事業

目次

1. はじめに	1
2. 調査の概要	2
3. 結果	4
3-1. 回答者の特性	4
3-2. GHQ 得点	5
3-3. 被害率	6
3-4. 被害を受けた時期、場所、加害者	7
3-5. 最も傷ついた経験	14
3-6. 同じ加害者による繰り返し被害	18
3-7. 通報率	20
3-8. IES-R 得点	21
3-9. ライフイベント	23
3-10. 少年期の被害に関する自由記述	25
3-11. 調査の感想	27
3-12. 電話での問い合わせ	31
4. 考察	33
4-1. 被害率	33
4-2. 被害者加害者関係	33
4-3. 少年期の被害が及ぼす精神的影響	34
4-4. 性的被害調査の問題点	34
5. 結論	35
6. 終わりに	36
参考文献	37

*付票 1. インフォームドコンセント用紙

*付票 2. 調査票

1. はじめに

犯罪白書や警察庁の統計書に見られるような犯罪統計は、事件として認知されたものだけが計上されており、その中に記載されている被害者の年齢や被害者加害者関係もあくまでも認知件数内での分類である。そのため、我が国における性的被害の実状を犯罪統計がそのまま反映しているとは考えにくい。それらの情報を得るためには犯罪被害調査を行わなければならないが、我が国でこれまで実施された犯罪被害調査は数少なく、中でも性的被害調査は少数しか行われてきていない。

犯罪被害調査によって得られる情報は非常に多く、その基礎的データをもとに被害の傾向や被害経験が及ぼすさまざまな影響を検証することができる。たとえば刑罰法規に定められた犯罪行為に限らず被害経験を尋ねることで、潜在化している被害を推定することができる。また被害者と加害者の関係はどのようなものか、どのような被害がどのような年代の女性に多いのか、被害者はどのような精神的苦痛をこうむるのか、などの情報も得られるのである。

一方、米国では犯罪統計だけではなく、全国犯罪被害調査、NCVS(National Crime Victim Survey)が司法省により 1973 年以来毎年行われている。NCVS は無作為抽出した全米のおよそ 94,000 人(12 才以上)を対象に、性犯罪、侵入盗、暴力被害などの被害経験を個人に面接する調査である⁹⁾。調査結果は「Violence Against Women」(女性に対する暴力)「Violence by Intimates」(親しい者からの暴力)「Child Victimized: Violent Offenders and Their Victims」(子供への被害について)「Sex Offenses and Offenders」(性犯罪と加害者)など様々なテーマごとに集計、分析され、被害の多様な側面を描写している。

今回我々が行った調査は、無作為に抽出した東京都在住の成人女性を対象とした性的被害調査である。本報告書では、主に少年期の被害についてまとめて報告することとする。性的被害調査は得られる情報も多い一方、調査手法に多くの困難が伴うものである。今回得られた被害の実情と調査手法に関する多くの知見をもとに、被害少年に対する適切なサポートと、実効ある防犯対策が行われることが期待される。

2. 調査の概要

調査の目的

我が国において潜在化している少年の性的被害の実状を推し量る。さらに性的被害が少年に与える心理的影響についての知見を得て、被害者に対する適切な援助と実効ある防犯教育のための資料とする。

対象

東京都在住の 20 才から 59 才までの女性 2400 人。都内 3 地域から各年代(20 代、30 代、40 代、50 代)600 名ずつ無作為に層化抽出した。

方法

無記名自記式アンケート方式による。対象者に調査票、および調査の意義と目的を明記したインフォームドコンセント用紙を郵送。返信用の封筒を同封し、参加意志のある者にだけ返送してもらった。また、より詳しい電話調査に応じてくれる人を募ったところ、14 人から参加協力を得た。

調査票

調査票は 5 部から成る。

第 1 部

就業状況、婚姻状況。年齢をたずねる質問は設けずに、調査票の用紙の色を年代毎に変えることによって回答者の年代を知ることとした。

第 2 部

日本語版 The General Health Questionnaire12 項目版 (以下 GHQ)。非器質性・非精神病性精神障害のスクリーニングとして開発された。(原版は Goldberg,1972 による)。

第3部

具体的な行為（以下の8項目）を示して、その被害経験の有無をたずねた。

Q1「言葉で性的ないやがらせを受けたことがありますか」

Q2「性器をわざと見せられたことがありますか」

Q3「無理やりお尻、胸、背中などからだをさわられたことがありますか」

Q4「無理やり抱きつかれたことがありますか」

Q5「無理やりキスをされたことがありますか」

Q6「無理やり性器をさわられたことがありますか」

Q7「したくないのに性交されそうになったことがありますか」

Q8「したくないのに性交されたことがありますか」

各被害について、(複数回被害経験のある人は、最も傷ついた経験を一つ選んで)被害の時期、加害者、場所、警察への通報の有無、さらに同じ加害者から繰り返し被害を受けたかどうかについて答えてもらった。

Q9「最も傷ついた被害」

Q1～Q8 でたずねた被害経験の中で最も傷ついた経験をひとつ特定してもらい、これも被害の時期、加害者、場所、警察への通報の有無、繰り返し被害の有無を答えてもらった。

第4部

上記で特定してもらった、最も傷ついた経験が、どの程度現在の精神的健康に影響を及ぼしているか評価するために、修正版出来事インパクト尺度 Impact of Event Scale-Revised(以下 IES-R)を用いた。この尺度は、外傷的なできごとのあとに続いて起こる精神的な影響を評価することを目的とし、DSM-IV(アメリカ精神医学会、1994)における心的外傷後ストレス障害(PTSD : Posttraumatic Stress Disorder)の診断基準にもとづいて作られたものである。22の設問の中に「侵入症状」7項目、「回避・麻痺症状」8項目、「過覚醒症状」8項目がサブスケールとして入っている。

第5部

直近のライフイベントおよび心配事の有無をたずねた。(ただし第4部までで答えてもらった性的被害は除く。)

なお、巻末にインフォームドコンセント用紙および調査票を付記したので参照されたい。

3. 調査の結果

対象者 2400 名のうち、459 名（19.1%）から有効回答を得た。

3-1 回答者の特性

回答者の年代、就業状況（週に 3 日以上働いていますか：除家事・ボランティア）、婚姻状況は以下の通りである。

表 1. 年代

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	20代	100	21.8	21.8	21.8
	30代	121	26.4	26.4	48.3
	40代	119	25.9	26.0	74.2
	50代	118	25.7	25.8	100.0
	合計	458	99.8	100.0	
欠損値 *		1	.2		
	合計	1	.2		
合計		459	100.0		

表 2. 就業状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いいえ	185	40.3	40.3	40.3
	はい	274	59.7	59.7	100.0
	合計	459	100.0	100.0	
合計		459	100.0		

表 3. 婚姻状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	未婚	126	27.5	27.5	27.5
	既婚	309	67.3	67.5	95.0
	別居	1	.2	.2	95.2
	離別	15	3.3	3.3	98.5
	死別	7	1.5	1.5	100.0
	合計	458	99.8	100.0	
欠損値 9		1	.2		
	合計	1	.2		
合計		459	100.0		

3-2. GHQ 得点

GHQ 得点の分布およびそのヒストグラムは以下の通りである。GHQ 得点は正規分布に近い形となっており、今回の対象者の精神的健康度に大きな偏りは見られなかった。

表 4. GHQ スコア処理ケース

	N	
	有効	欠損値
GHQ score	443	16
GHQ0-1 score	443	16

表 5. GHQ スコア度数分布

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	.00	2	.4	.5
	1.00	1	.2	.7
	2.00	4	.9	1.6
	3.00	5	1.1	2.7
	4.00	7	1.5	4.3
	5.00	9	2.0	6.3
	6.00	12	2.6	9.0
	7.00	11	2.4	11.5
	8.00	21	4.6	16.3
	9.00	24	5.2	21.7
	10.00	29	6.3	28.2
	11.00	26	5.7	34.1
	12.00	29	6.3	40.6
	13.00	36	7.8	48.8
	14.00	22	4.8	53.7
	15.00	29	6.3	60.3
	16.00	25	5.4	65.9
	17.00	25	5.4	71.6
	18.00	18	3.9	75.6
	19.00	23	5.0	80.8
	20.00	10	2.2	83.1
	21.00	9	2.0	85.1
	22.00	18	3.9	89.2
	23.00	12	2.6	91.9
	24.00	6	1.3	93.2
	25.00	7	1.5	94.8
	26.00	3	.7	95.5
	27.00	4	.9	96.4
	28.00	4	.9	97.3
	29.00	5	1.1	98.4
	30.00	3	.7	99.1
	31.00	2	.4	99.5
	34.00	1	.2	99.8
	36.00	1	.2	100.0
合計		443	96.5	100.0
欠損値	システム欠損値	16	3.5	
	合計	16	3.5	
合計		459	100.0	

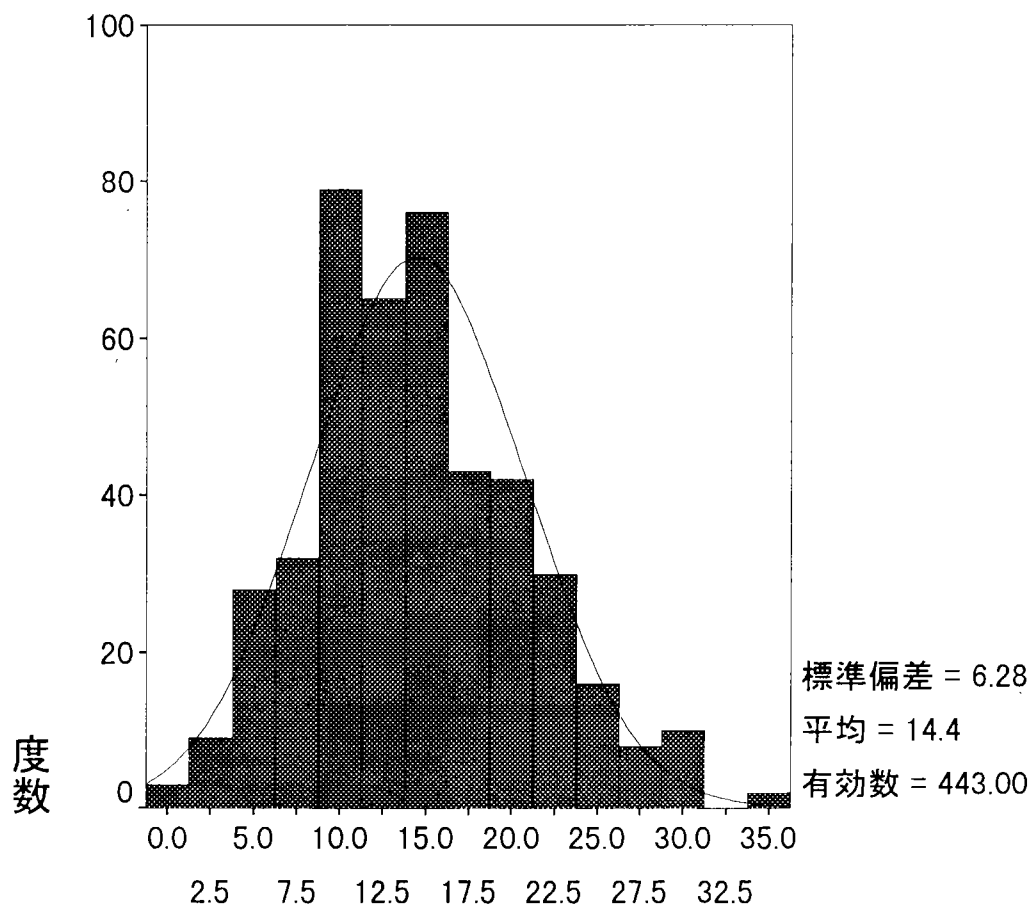


図 1.GHQ スコアヒストグラム

3-3.被害率

有効回答者総数 459 名のうち、Q1 から Q8 までいずれかの被害を受けたことがあると答えた者は 83.7%(N384)であった。また、55.6%(N=255)が、少年期(19 才までにいずれかの被害を受けたと答えた。459 を母数として、各被害を調査票記入時までを受けたことがあると答えた人の割合を生涯被害率とし、さらに 19 才までに受けたことがあると答えた人の割合も表 6 に示した。

表 6 被害率

被害率	生涯被害率(%)	19才まで(%)
言葉で性的ないやがらせをうけた	38.6	9.4
性器をわざと見せられた	56.9	27.5
無理やり体をさわられた	69.9	29.6
無理やり抱きつかれた	28.8	10.5
無理やりキスされた	18.1	6.3
無理やり性器さわられた	21.6	14.6
したくないのに性交されそうになった	14.4	4.6
したくないのに性交された	8.3	1.7